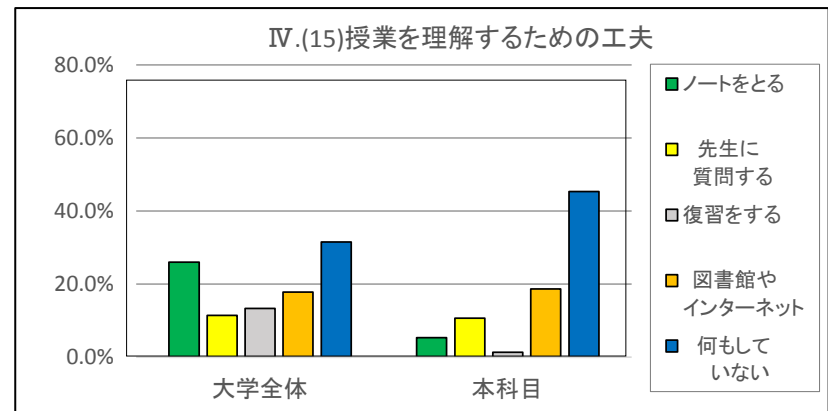


※レーダーチャートの平均は4段階評価 4(そう思う)、3(ややそう思う)、2、(あまりそう思わない)、1(そう思わない)

〈※複数選択可項目〉	ノートをとる	先生に質問する	復習をする	図書館やインターネット	何もしていない
IV.(15)授業を理解するための工夫	5.3%	10.7%	1.3%	18.7%	45.3%



	設問No.	科目平均	全体平均
自身の受講姿勢	I.(1)	3.39	3.45
	I.(2)	3.44	3.56
	I.(3)	3.03	3.07
講義内容・方法	II.(4)	2.95	3.01
	II.(5)		
	II.(6)		
	II.(7)	3.13	3.33
	II.(8)	3.31	3.42
	II.(9)	3.24	3.30
	II.(10)	3.12	3.23
	II.(11)	3.33	3.21
	II.(12)	3.36	3.48
	II.(13)	3.28	3.45
満足度	II.(14)	3.27	3.41

	本科目平均	全体平均
自身の受講姿勢 I.(1)~(3)	3.28	3.36
講義内容・方法 II.(4)~(13)	3.22	3.30
総合的満足度 III.(14)	3.27	3.41

授業年度	2017年度後期
時間割番号	21113
科目名	教育方法・技術論A(初等)
教員名	金山 憲正

#### ①授業計画の達成度について

ICTの活用とそれを活用した指導についての方法と活用するための技術の習得について当初の講義のねらいを計画通り達成できたと考えている。ただ、ICTに関する技能面ではスマートホンの操作は得意であるがパソコンの操作を得意としない学生が一部に見られたことも事実である。その学生には個別の追加課題で対応し時間は要したがねらいは達成することができた。

#### ②授業の進め方について

ICTの技術習得の時間以外はグループでの協働学修中心の授業展開であった。事前に協働学修の意味と意義について時間をかけて説明してから活動に入ったので、人任せの姿勢で学修に取り組む学生は見受けられなかった。むしろ各自が個々の課題を意識しながらグループ課題に取り組んでおり積極的な活動が進められていた。また、グループの成果の発表会及び個々のレポートにおいても課題の把握とその追求についての確かなまとめができていた学生が多く見られた。問題解決型の授業というのを学生自身が体験することにより、より深く理解できたように思える。

#### ③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

アンケート項目「授業を理解するための工夫」で「何もしていない」が45%にも上ることは一考を要することになると考える。その原因として思い当たることは、課題解決に役立つだろうと思われる資料を個人が開設しているHPに数多く掲載していたため学生に自分たちで資料収集する必要性を感じさせることが出来なかったことがあげられる。提示する資料を考え直していく必要を感じた。